

学位論文内容の要旨

学位申請者	宇津木 奈美子 【比較社会文化学専攻 平成19年度生】	要 旨
論文題目	言語少数派の子どもに対する教科学習支援に関わった母語支援者の当事者性獲得に関する研究	<p>本論文では、グローバル化に伴い急増している言語少数派の子どもに対する「教科・母語・日本語相互育成学習モデル」に基づく教科支援に携わった（子どもの）母語支援者の当事者性の獲得のプロセスについて、言語生態学を理論的背景として検討された。</p> <p>研究 1 では母語を活用した教科学習支援に対して懐疑的であった留学生が教科学習支援を通してどのように当事者性を獲得したかという課題を立て、支援に対する意識を質的に分析した。研究 2 では、研究 1 の留学生を対象に、留学生の当事者性の獲得を支えた「探索的母語支援」の実態を明らかにした。さらに研究 3 では、子どもの母語に精通している日本人支援者を対象に、教科学習支援に対してどのように当事者性を獲得したかという課題を立て、支援の進め方に対する意識を質的に分析した。そして研究 4 では、地域在住の日系南米人は国語の教材翻訳支援に対してどのように当事者性を獲得したかという課題を立て、支援に対する意識を質的に分析した。</p> <p>これらの研究から子どもの教育から周辺化されている母語支援者が、子どもの母語を活用することで子どもの教育の当事者となれることが示された。これを可能にしたのは、母語専一で主体的に支援が行えたこと、また、支援者間のサポートがあったことなどの結果が導かれ、長年の実践に基づく言語少数派の子どもの教育への豊富な示唆が得られた。</p>
審査委員	(主査) 佐々木 泰子	
	教授 森山 新	
	准教授 西川 朋美	
	教授 加賀美 常美代	
	教授 伊藤 美重子	